Japan International
Association of
Lighting Designers

一般社団法人 日本国際照明デザイナーズ協会
第1期［2014年9月～2015年8月］

www.ialdjapan.jp

Japan International
Association of
Lighting Designers

IALD Japan Annual Report

一般社団法人 日本国際照明デザイナーズ協会［アニュアルレポート］

Vol.01

Japan International
Association of
Lighting Designers

IALD Japan Annual Report

一般社団法人 日本国際照明デザイナーズ協会［アニュアルレポート］

Vol.01

第1期［2014年9月～2015年8月］

IALD Japan Annual Report Vol.01

一般社団法人 日本国際照明デザイナーズ協会［アニュアルレポート］

第1期［2014年9月～2015年8月］

I N D E X

Chapter 01
協会設立への歩み

1-1	代表理事挨拶	04
1-2	IALD と IALD Japan	05
1-3	IALD 東京会議から協会設立へ	06
1-4	一般社団法人 日本国際照明デザイナーズ協会 設立の目的	08

Chapter 02
活動報告

2-1	定時総会	10
2-2	Enlighten の活動目的	11
2-3	Event Report Enlighten Asia in Japan 2015	12
2-4	ライティング・フェアでのコードシェアおよび共催企画について	24

Chapter 03
組織運営

3-1	委員会の概要と設置の目的	26
3-2	理事会体制	27
3-3	会員紹介	28
3-4	IALD リージョナルコーディネーター紹介	30
3-5	IALD Japan 事務局紹介	30
3-6	第2期に向けて	31

Chapter 01

協会設立への歩み

1-1｜代表理事挨拶

1970年代から始まった日本の照明デザインは、長い歳月の黎明期を過ぎて、徐々に社会的に認められて来ました。
そして1990年代以降は、都市景観から建築照明の分野まで、幅広く照明デザイナーが関与し、数多くの事例を創り出すようになりました。それらの照明デザインは、世界的にも認められ、北米照明学会や国際照明デザイナー協会（IALD）では、多くのプロジェクトが受賞するなど、海外でも高い評価を受けております。

この度、国際照明デザイナー協会よりプロフェッショナルな会員として認められているメンバーが中心となって、一般社団法人 日本国際照明デザイナーズ協会（IALD Japan）を発足しました。
日本で長い時を経て育まれた明かりの文化と、昨今、著しい発展を遂げている新しい技術を融合させ、環境に配慮した照明デザインを志向するとともに、次世代を担う照明デザイナーの育成に力を注ぎ、照明の分野の発展に寄与することを願っております。
今後とも、よろしくお願い申し上げます。

一般社団法人 日本国際照明デザイナーズ協会 代表理事

1-2｜IALD と IALD Japan

国際照明デザイナー協会（IALD=International Association of Lighting Designers）は、米国シカゴに本部を持つ世界最大のプロの照明デザイナーを中心とした職能集団です。
1969年に設立された歴史ある組織で、北米、南米、欧州、オーストラリア、アジアを中心に、現在世界中に950名ほどの会員が登録されています。職能としての照明デザイナーの有益性や社会的役割を啓蒙しつつ、学生や若い照明デザイナーの教育育成にも努めています。また、年に1度米国で行われる「Lightfair International」におけるセミナー・プログラムの企画、さらに照明デザインと照明業界を結び付ける「ENLIGHTEN AMERICAS」や「ENLIGHTEN EUROPE」という国際会議を毎年開催するなど、多角的なイベントや事業を展開し、広く照明業界に貢献しています。

一般社団法人 日本国際照明デザイナーズ協会（IALD Japan）は、そのIALDに加盟する日本の代表的な照明デザイナーの集団で、セミナーや研修会を通じて照明デザインの啓蒙や職能の研鑽を推し進めています。2010年当時には16名だった日本のIALDへの登録会員が相互の連携を求めて集い、徐々に会員数を増やして、2014年9月に同協会を設立しました。
もちろんIALDという国際的な組織の中で日本支部としての役割もありますが、私たちは主に日本固有の照明デザインを課題として取り上げて、広範に照明や建設業界の諸兄と連携していきます。IALD Japanは独立したプロの照明デザイナーを中心とした組織ではありますが、照明関連の企業に所属するデザイナーや技術者、また教育関係者や学生など、幅広い分野で会員を募り、業界の健全な進化発展に寄与していきたいと考えています。

1-3｜IALD 東京会議から協会設立へ

日本国内で活動する国際照明デザイナー協会に所属する会員有志による協議会を「IALD東京会議」と命名し、2009年6月より活動を開始。忙しい時間の合間を縫って集うデザイナーは次第に連帯を強め、照明業界全体にわたる有意義な議論を重ねました。
2011年後半からは日本で初めてとなる照明デザイナーによる国際会議を企画し、2013年日本の照明デザインの今日までの成果の喧伝および社会への啓蒙を目的に、「Enlighten Asia in Japan 2013」と銘打って大規模なセミナー・イベントとしてアジアに向けて力強く発信することとなりました。会場となった国際照明見本市である「ライティング・フェア」と同調し、照明デザイナーによる魅力的で多彩なセミナーや斬新な企画コンテンツを繰り広げ、大好評を得ることとなりました。
これを契機に一連の活動を通して基盤となる国内の組織づくりにも協議を重ね、2014年9月1日に日本におけるプロフェッショナルの照明デザイナーの職能集団として、一般社団法人 日本国際照明デザイナーズ協会を設立しました。現在80名の会員によってさまざまな活動を展開しています。

Caption

これまでに行った会議での参加メンバーによる記念撮影。
「IALD東京会議」の企画運営は有志メンバーで精力的に実施し、次第に多くのデザイナーの輪を広げることとなりました。また参加メンバーは全国にわたり、会議名も第9回より「IALD Japan会議」と改名しました。会場は五反田の東京デザインセンターで、協会設立後もその慣習は継承しています。

第1回 IALD 東京会議

第2回 IALD 東京会議

第3回 IALD 東京会議

第4回 IALD 東京会議

第5回 IALD 東京会議

第6回 IALD 東京会議

第7回 IALD 東京会議

第8回 IALD 東京会議

第9回 IALD Japan会議

第10回 IALD Japan会議

第11回 IALD Japan会議

第12回 IALD Japan会議

第13回 IALD Japan会議

第14回 IALD Japan会議

第15回 IALD Japan会議

第16回 IALD Japan会議

第17回 IALD Japan会議

1-4｜一般社団法人 日本国際照明デザイナーズ協会 設立の目的

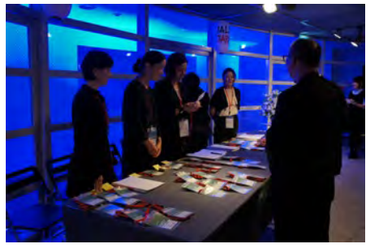
2014年9月1日、東京会議のスタートから5年の歳月を経て、日本で初めての照明デザイナーによる照明デザイナーのための職能集団、一般社団法人 日本国際照明デザイナーズ協会を設立しました。同年10月9日には照明業界から多くのゲストを迎えて、東京デザインセンターガレリアホールにてプレス発表会を開催。内外の多くの関係者からの祝福と今後の活動への期待が寄せられました。

設立の目的

本協会は、日本並びに国際社会とのコミュニケーションを促進し、照明デザイナーの地位の向上を図り、光のデザインを通じて社会と文化の発展に寄与することを目的とします。

設立の目的を達成するために、次の事業を推進します。

1. 照明デザインの理念・役割・技術の研究と情報発信
2. 照明デザイナーの質的向上と育成のための研修・教育・広報事業
3. 照明に関係する機関・学会・団体等との連携および協力
4. 海外関係機関・団体等との交流および協力
5. その他本協会の目的を達成するために必要な事業



Chapter 02

活動報告

2-1｜定時総会

一般社団法人 日本国際照明デザイナーズ協会（IALD Japan）では年に1回の定時総会と2～3回の臨時総会を開催しています。
2014年度は計3回の総会を行いました。総会へは各回とも過半数の会員が出席しており、IALD Japanの活動の根幹となっています。本年度は3月に「Enlighten Asia in Japan 2015」という大きなイベントを擁していたため、これが年間を通して大きな議題となりました。
設立時に行った会議（総会）では、一般社団法人 日本国際照明デザイナーズ協会設立と定款の説明、プレス発表について、「Enlighten Asia in Japan 2015」の進捗状況などを報告しました。
法人となって第1回目の総会（2015年1月23日）では直後に控えた「Enlighten Asia in Japan 2015」の進捗状況を中心に報告や意見交換などを行い、出席数も77名中45名と、会員の「Enlighten Asia in Japan 2015」への期待度の高さを再認識するものでした。半年後の第2回総会（2015年6月23日）では、会計に関する中間報告および3月に開催した「Enlighten Asia in Japan 2015」についての報告と意見交換をしました。また各活動のための委員会の設立など、今後の活動について話し合いました。

一般社団法人 日本国際照明デザイナーズ協会
第1期 総会スケジュール

2014年9月26日（金）	設立時総会	場所：東京デザインセンター8階 会議室
2015年1月23日（金）	第1期／第1回総会	場所：東京デザインセンター8階 会議室
2015年6月23日（金）	第1期／第2回総会	場所：東京デザインセンター8階 会議室

第1回総会［2015年1月23日］

第2回総会［2015年6月23日］

2-2｜Enlightenの活動目的

「Enlighten Asia in Japan 2015」は、2013年の初回に続き2回目の開催となるアジアでの照明デザインの世界会議イベントです。今回は2014年に法人となった一般社団法人 日本国際照明デザイナーズ協会（IALD Japan）が、一般社団法人 日本照明工業会、日本経済新聞社とともに主催する革新的なイベントとなりました。

国際照明デザイナー協会（IALD）は、照明デザイナーによるセミナーイベント「ENLIGHTEN AMERICAS」を2007年より北米諸都市で毎年開催し、この継続的な活動はヨーロッパにも伝播して「ENLIGHTEN EUROPE」として開催しています。参加者はIALD会員に限ることなく、照明業界や建設業界全般におよび、照明デザインを取り巻く業界全般の課題をテーマにして毎回活発な議論が展開されています。このENLIGHTENの思想を受け継ぐイベントをアジアで行いたいという声が2010年に挙がり、IALDの日本の会員有志で企画実行委員会を発足させ活動を続けてきました。
多忙な全国の照明デザイナーたちが自発的な会合を頻繁に開き、日本経済新聞社や日本照明工業会の方々との意見調整を重ね、今回は「ライティング・フェア」のイベントと全面的な相互協力体制のもと、セミナーやシンポジウムのプログラムを立案しました。

2015年のプログラムのテーマは“Feeling with Technology”。
LEDや照明制御技術の急速な発展により、照明デザイナーは飛躍的に発想や表現の幅を広げて来ました。そして今、新たな感性や感覚が、進化する先端技術をどのようにリードして行けるのかが問われています。Feeling with Technology とは、技術と感性で新たな時代を構築するためのキーワードです。この未来を見据えた課題について2日にわたり17のセッションで活発な討論が行われ、前回同様さまざまな反響を呼び起こしました。
「Enlighten Asia in Japan」の継続開催を通じて、日本の照明デザイナーたちのさらなる連携と強い結束力が再確認されたことは、将来につながる大きな成果です。今回は、欧州、アメリカ、アジアと幅広いエリアから前回を上回る8カ国12名の海外講師を招くとともに、4名の海外で活躍する日本人照明デザイナーを加え、グローバルな交流が行われました。
一方、2回目の開催で内容や運営上の改善点が見えてきたことも事実であり、これらを修正しながら将来につなげていくことが大切であると実感しました。

昨今照明デザインの周辺は目まぐるしく変化しています。特にメディアファサードやプロジェクションマッピングなど照明分野に影響を与える映像技術が急速に普及してきました。光による色彩や具象的表現、そしてその変化が表現の幅を広げようとしている一方で、今後照明デザインは、これらとどのように向き合っていくかという議論が発生しています。まさに先端技術を照明デザイナーがいかに自らの表現手段に加えるかということが問われているのです。私たちはこれを好機として、照明業界との絆を一層強固に保ちながら、進化し続ける光環境の正しい進路を示す羅針盤とならなくてはなりません。

「Enlighten Asia in Japan 2015」は、現在を見据えながら照明デザインの未来を示しました。これを礎としてIALD Japan はさらに卓越した職能を目指し、近未来社会に対し創造的な発信を継続することが重要な使命となるでしょう。

Enlighten Asia in Japan 2015

IALD JAPAN

ENLIGHTEN ASIA IN JAPAN 2015

2015.03.03 TUE ▸ 03.06 FRI MAINSITE: TOKYO BIG SIGHT

2-3 | Event Report

Enlighten Asia in Japan 2015

これまでIALDが北米諸国やヨーロッパで開催してきた照明デザイナーによるセミナー・イベントを、「Enlighten Asia in Japan」として、アジアで初めて2013年に実施しました。 東京ビッグサイトの会議棟の一角を会場として、日本国際照明デザイナーズ協会の前身である「IALD Japan（日本の照明デザイナーの有志集団）」が日本経済新聞社の後援を得て主催したのです。
2015年には、さらに進化した形で「Enlighten Asia in Japan 2015」を催しました。“Feeling with Technology”をテーマに掲げ、LEDや照明制御技術の急速な発展により飛躍的に広がった照明デザイナーの発想や表現を、より一層押し広げる内容が盛り込まれました。

ENLIGHTEN ASIA
照明デザイン国際セミナー ENLIGHTEN ASIA+ライティング・フェア
IALD JAPAN

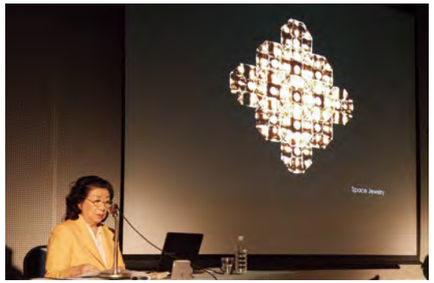
3月4日(水)、5日(木)の2日間に繰り広げられたセミナーは、海外4カ国から著名な照明デザイナーをスピーカーとして招待、そのレクチャーを含む17の光に関わる多彩なテーマで構成しました。文化的な側面や、技術的な進歩にともなう表現の広がり、世相を反映した大きなテーマからディテールまで、あらゆる角度から光のデザインについて掘り下げました。デザイナーのクリエイティビティがどのように業界をリードしていくか、さまざまな実証的成果や提案が発表されました。

Information
会場：東京ビッグサイト 会議棟1階 101・102会議室
主催：一般社団法人 日本国際照明デザイナーズ協会
一般社団法人 日本照明工業会、日本経済新聞社

Seminar EL01 日本国際照明デザイナーズ協会 設立記念基調講演 :光は文化を創る

石井 幹子［石井幹子デザイン事務所］
木曽 功［内閣官房参与、前ユネスコ大使、コメンテーター］

基調講演で石井幹子氏は、2014年に日本国際照明デザイナーズ協会が設立されたことを報告しました。折しも2015年が国際光年であることに触れ、人類と光の関係が密接であることを指摘。そして、半世紀近くにわたる自身のデザインを交え、日本の照明デザインの変遷を紹介しました。そのうち海外5カ国で行った国交周年記念イベントでは、光をメディアとした新たな表現の展開により高評価を得たことも披露。さらに日本の文化を伝える夜間景観の充実を重要な取り組みととらえ、文化財への照明デザインが多くの効能を発揮するものとして言及しました。
コメンテーターの木曽功氏は、夜間のライトアップが国の文化レベルを表す指標になると話し、石井氏の活動が後世に伝えられることを願っていると述べました。



Seminar EL02 国際照明デザイナー協会 (IALD)の使命と役割

バーバラ・ホートン［国際照明デザイナー協会］
マーシャ・ターナー［国際照明デザイナー協会］
Moderator : 面出 薫［ライティング プランナーズ アソシエーツ］

国際照明デザイナー協会(IALD)は、1965年に設立された世界初のプロフェッショナルな照明デザイナーの職能団体。その歴史と役割、現在の活動を、現会長のバーバラ・ホートン氏と運営責任者のマーシャ・ターナー氏が説明しました。
今年はユネスコの提唱する「Year of Light（国際光年）」。この機会を逃すことなく、IALDも光のデザインについて全世界にPRしている状況をホートン氏は語りました。ターナー氏は、照明団体同士の国境を越えた密度の濃い関係を重要視し、さらにアジアに日本の協会が設立されたことの意義を、期待を込めて称賛。将来的には米国、ヨーロッパ、アジアの3極が連携しながら、IALDを運営していくべきであり、その大切さが充分に伝わるセミナーとなりました。

2-3 | Event Report Enlighten Asia in Japan 2015

Seminar EL03 文化のひかり：感性と土地由来のもの

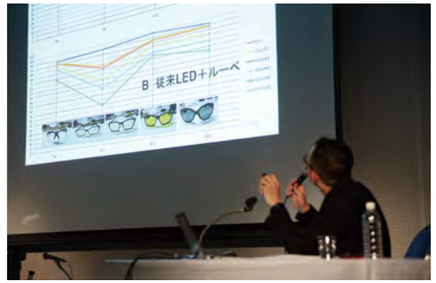
チャールズ・ストーン［フィッシャー マランツ ストーン］
Moderator : 東海林 弘靖［LIGHTDESIGN］

チャールズ・ストーン氏は、NYを拠点に1971年以降44年にわたり世界中を飛び回り、22カ国もの国で活動をしてきた照明デザイナー。彼の光に関する仕事の集大成といっても過言ではない豊富な見識を把握できるレクチャーでした。
チャールズ氏は、世界各地に土着的に存在する光にまつわる習慣や生活慣習が、その土地や民族とどのような関係があるのかという視点で語りました。たとえば北欧には「Hygge（ヒュッゲ）」という表現があります。暖かく快適に過ごすことを指し、それには蝋燭の炎が重要な役割を果たします。こうした土着の文化への理解が大切であると説いたのです。スクリーンには、彼が集めた美しい光の写真が次々と映し出され、聴者を魅了。極めて詩的なセミナーとなりました。

Seminar EL04 ブルーライトと上手につきあう方法

井手 武［南青山アイクリニック 副院長、ブルーライト研究会 世話人］
小山 憲太郎［コヤマケンタロウデザイン事務所］
Moderator : 東宮 洋美［ライトスケープ・デザイン・オフィス］

現代の労働や居住環境で身近に目にするブルーライトは、眼精疲労を引き起こすとして議論を呼んでいます。そこで、ブルーライトの性質をはじめ、人への影響、LED光源との関係などが詳解されました。
現在、体内時計の定量的モデルはないものの多色光環境下ではメラトニン分泌抑制が小さくなること、抑制率は子どもは大人の2倍高いことがわかっています。それゆえに光源はさまざまなバランスで考えなければなりません。現在、省エネランプとして急速に増加したLED照明は、一日の自然のリズムに呼応した色温度制御も可能です。また、LEDモニターも背景色でブルーライト強度を調整できるのです。
このセミナーでは、ブルーライトと上手につきあいながら、表現の幅を広げることが求められていると示されました。



Seminar EL05 アジアで仕事をする 日本人照明デザイナー達

板倉 厚［ライティング プランナーズ アソシエーツ］
藤井 茂紀［ニベック］
井元 純子［アラップ 上海事務所 上海ライティングリーダー］
Moderator : 戸恒 浩人［シリウスライティングオフィス］

アジアを拠点に活躍する3人の日本人デザイナーが実績を例に挙げながら、各国の仕事について解説をしました。
香港で働く板倉厚氏曰く、「最後まで情熱をもって仕事をすることが第一」。日本人はディテール追求の姿勢が評価されていると分析しました。上海の井元純子氏は「コミュニケーション力」を挙げました。多国籍の人が協働する環境では、自らが動いて細かい点まで発言し、相手の話を理解してビジョンを共有しないと立ち行かないとのこと。シンガポールの藤井茂紀氏は「クリエイティビティだけでなく、ローカル事情に合わせた照明器具のスペック、品質保障、サプライヤーの選択などの知識が必要」と指摘しました。
3者の話から、積極的なコミュニケーションが共通点であると受け取れました。

Seminar EL06 明るさ感の評価指標と照明デザイン

小野田 行雄［イリス・アソシエーツ］
岩井 彌［パナソニック エンジニアリング綜合センター照明ソフト開発チーム］
大嶋 航介［岩崎電気 営業技術部］
Moderator : 岡本 賢［Ripple design］

定量化が難しい「明るさ感」。現在、いくつかある評価指標について、それらの違いは何か、また、照明デザインのプロセスにどのように取り入れることができるかがディスカッションされました。
まずは、それぞれの評価指標について、概要の説明がありました。それにより「明るさ感」のコントロールは、照度だけでなく輝度のデザインが重要な鍵になると理解が深まりました。すでに多くの照明デザイナーが独自の方法で輝度設計を行っていますが、評価指標は輝度設計のサポートツールとして可能性を感じます。明るさ感の表現はデザイナーの個性であり、数値では語れない側面もあるので、今後のアップデートに期待しつつ、積極的にデザインプロセスに取り込んで、検証していくべきであると示されました。

LIGHTING STAGE IALD JAPAN ライティングステージ

「ライティング・フェア」のレセプションエリアとして多くの人が集う西ホールアトリウムに特別に設置されたステージでは、「Lighting Stage」と題して、「暮らしを楽しくするあかりの未来」をテーマに22もの魅力的なプログラムが催されました。そのうち日本国際照明デザイナーズ協会（IALD Japan）のメンバーが企画・参加したのは5つのプログラム。照明を取り巻く歴史から、建築や街と照明の関わり、グローバルな視点でとらえた照明デザインの世界観が語られました。また、対象物を明確に把握しながらいかに光をコントロールするか、その大切さが聴者に対して示唆されました。

Information
会場：東京ビッグサイト 西ホールアトリウム
企画：ライティング・フェア2015企画委員会、一般社団法人 日本国際照明デザイナーズ協会

Event Title & Panelist ★日本国際照明デザイナーズ協会会員

照明デザインの今「2014 IALD AWARD、IES AWARDから照明の世界的動きを探る」
彌吉 泉美［彌吉泉美照明デザイン］★ 東海林 弘靖［LIGHTDESIGN］★
福多 佳子［中島龍興照明デザイン研究所］★ 吉野 弘恵［アカリ・アンド・デザイン］★
川村 和広［ソラ・アソシエイツ］ 内原 智史［内原智史デザイン事務所］★
司会：近田 玲子［近田玲子デザイン事務所］★

照明コントロールの過去・現在・未来
金田 篤士［ワークテクト］★ 鹿子木 浩二［ルートロンアスカ］
北田 富一［レイオス／ヘルバージャパン］

あかりからのまちづくり「上州富岡駅周辺整備に見る照明インフラの新たなあり方」
角舘 まさひで［ぼんぼり光環境計画］★ 武井 誠・鍋島 千恵［TNA］

光のクオリティを計る「色温度と演色性のナゾ」
飯塚 千恵里［飯塚千恵里照明設計事務所］★
渕田 隆義［女子美術大学大学院 芸術文化専攻 教授 工学博士］

2020年東京 光の周辺「オリンピックと街デザイン、光の関わりをひも解く」
富田 泰行［トミタ・ライティングデザイン・オフィス］★ 中野 恒明［芝浦工業大学 教授、アブル総合計画事務所］
田中 一雄［日本インダストリアルデザイナー協会、GKインダストリアルデザイン］

Seminar EL07 世界の照明デザイン教育

ヤン・エイヘット［KTH（スウェーデン王立工科大学）］
チャールズ・ストーン［フィッシャー マランツ ストーン］
Moderator : 岩井 達弥［岩井達弥光景デザイン］

照明デザイン先進国の欧米で、照明デザイン教育がどのように行われているか、教育の経験が豊富な2人がレクチャーを行いました。照明のLED化やさまざまなツールの発達といった技術的な革新の時期にあって、将来を見据えて、今後の日本やアジアでどのような照明デザインの教育がなされるべきか、何を目指すのかが語られました。
照明デザインには、アート、サイエンス、クラフトの要素が求められていて、それらが照明デザイン教育の基本になることが示されたのです。2人の話で興味深かったのは、日本の照明デザイナーの仕事では見られない、昼光のシミュレーションが多く語られたことです。全体を通じ、実践的な立場で教育がなされることの重要性を訴える内容となっていました。

Seminar EL08 光の未来を考える

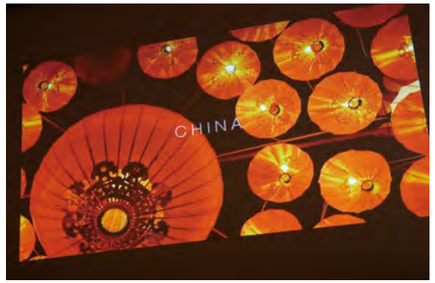
中野 幸伸［ペリクラークペリアーキテクツジャパン執行役員、光井純&アソシーエーツ建築設計事務所 東京事務所所長］
水馬 弘策［遠藤照明 海外部］
永津 努［フェノメノン ライティングデザイン オフィス］
Moderator : 松本 浩作［スタイルマテック］

このセミナーでは、事前に日本国際照明デザイナーズ協会のメンバーに対して実施した46項目のアンケートをもとに、海外で活躍する建築家と照明メーカーの代表、そして若手の照明デザイナーが登壇して、「光の未来」についてディスカッションしました。
アンケートでは、市場における照明デザイナーの職性に対する認知度（63%）のほか、社会で期待されているとの実感が高く（74%）、また海外のデザイナーと競合できる自信は80%以上という結果が示されました。照明デザイナーに課せられた期待は大きく、グローバルな視野をもって切磋琢磨する必要があること、そして、ますます広がるLEDやレーザーライトなど、新光源をはじめとしたさまざまな分野への関心の高さも確認できました。

Seminar EL09 中国と韓国の「照明デザインの今」

ウノ・ライ［ウノ・ライ照明デザイン］
リー・ヨンソ［ULP ディレクター］
Moderator : 近田 玲子［近田玲子デザイン事務所］

発展が続く中国・上海市で活躍しているウノ・ライ氏と、韓国・ソウル市の照明計画の中心メンバーであるリー・ヨンソ氏に、中国、韓国の照明デザインの今と、これからを語ってもらいました。
ライ氏は「relationship」「language」「face to face」が大切と提言しました。中国では人と人との緊密な関係が求められており、施主が照明デザイナーに直接指示するとのこと。なお、世界全体の照明器具の3分の2は中国で生産しています。ヨンソ氏は、アイデンティティ、安全、美しさを踏まえた照明デザインが求められていることを説明。高速道路を取り払って川を蘇らせ、市民の憩いの場をつくった清渓川復元プロジェクトを例に挙げ、都市観光の先駆けとなった事例の照明計画について解説を行いました。



2-3 | Event Report Enlighten Asia in Japan 2015

Seminar EL10 LIGHT IN TOKYO 2020

岡安 泉［岡安泉照明設計事務所］
星野 裕明［ホシノアーキテクツ、ホプキンスアーキテクツ 日本代表］
Moderator：内木 宏志［ナイキデザイン事務所］

2020年の東京オリンピック開催に向けて、東京の都市デザイン・建築・アートイベントなどで展開される光のあり方や理想の光環境をテーマに掲げて、考察が繰り広げられました。
今後の建設計画や、5年後の開催までに変貌を遂げると予想される東京の景観を、パネリストが各々の視点で発言。それにより、オリンピックを終えた後の街の魅力も踏まえて長期的なスパンでの開発が行われるべきであり、そこでは光が重要な役割を果たすことが確認されました。
また、ロンドン市街で1943年に提唱された都市形成のフレーミングシートを参考に、東京および周辺都市それぞれの地域性に応じた光文化を醸成しつつ、どのようにすれば独自性が強調できるのか、意見交換がなされました。

Seminar EL11 反射をデザインする

ゲルド・ファレ［ファレ ライティング デザイン］
Moderator：武石 正宣［ICE都市環境照明研究所］

ドイツのゲルド・ファレ氏は、15年間インゴマウラー社に在籍した経験をもつ照明デザイナー。光のプロダクトに関わりながら、自身の考える空間への照明の可能性を追求するために照明デザインの事務所を立ち上げました。
このセミナーでは、これまでに数々のプロジェクトをこなしてきたファレ氏に、自身が関わった事例をもとに、照明デザインについて考えを発表してもらいました。
ファレ氏は、空間の素材や色彩と、照明の関係性に注目しています。照射するだけではなく、回り込む光によって包まれる空間の照明デザインを繊細に考えている様子が語られました。また、プレゼンテーションでは、照明デザイン手法について視覚化してわかりやすく解き明かし、聴者に訴えかけました。

Seminar EL12 都市景観とファサードライティングの進化

富田 泰行［トミタ・ライティングデザイン・オフィス］
山下 裕子［ワイ・ツー・ライティングデザイン］
Moderator：内原 智史［内原智史デザイン事務所］

LEDが建築ファサードの一要素となって表現の幅が広がった照明デザイン。そのうち都市景観をめぐるデジタルライティングについて、その技術および照明デザイナーの役割が議論されました。
特に注目を集めているのは、複数の大型プロジェクターを高い精度で重ねて立体上につなぎ合わせるデジタル3Dマッピング。動画を建築物に投影することで、アートを超えてエンターテインメントの演出を目的とした表現が増えつつあると指摘されました。一方で、固定的な静止景観としての光のデザインにも言及。照明デザイナーは、新しい多彩な表現に積極的に取り組みつつも、景観に必要なディレクションのポイントに配慮して、より広域に都市の資源を活かす立場での提案が大切であることが提示されました。

co_re_ca_light
コレカライト
A light for the future

「Lighting Stage」の表裏一体に開設されたコレカライトスタジオでは、日本を代表する照明メーカーと照明デザイナーのコラボレーショントークを開催しました。「ライティング・フェア」期間中の4日間で、ユニークで斬新な照明の魅力の今を知る豊富なテーマとデザイナーの発想を支え、常に協同していただく“つくり手”の視点が加わった画期的なトークイベントとなりました。また、アトリウムに設置された10本の列柱にはあかりの未来をのぞき見る実験展示や映像・ジオラマが登場。照明デザイナーの幅広い実証例であかりの“コレカラ”が展示されました。
IALD Japanは、気鋭の女性照明デザイナー 4名が特別解説しながら「ライティング・フェア」の出展ブースをめぐる探検ツアーを企画しました。進化の暇のないLEDや新光源のOLEDの展示に、プロフェッショナルのデザイナーによる先端技術の応用テクニックが解説に加えられました。照明デザイナーによる洗練されたB to Cのプレゼンテーションテクニックは大好評でした。

Information

会場：東京ビッグサイト 西ホールアトリウム　主催：一般社団法人 日本照明工業会、日本経済新聞社
企画：ライティング・フェア2015企画委員会（アイリスオーヤマ、岩崎電気、NECライティング、遠藤照明、オーデリック、コイズミ照明、コイト電工、GSユアサ、シャープ、スタンレー電気、星和電機、大光電機、DNライティング、東芝ライテック、パナソニック、日立アプライアンス、三菱電機照明、YAMAGIWA）
企画協力：一般社団法人 日本国際照明デザイナーズ協会

co_re_ca_light Exploration Tour

［ツアー01］Tour Guide：長町 志穂［LEM空間工房］
ルート：ウシオライティング ▶SD Lighting ▶ヨシモトポール ▶ルートロン ▶YAMAGIWA ▶コイズミ照明 ▶GSユアサ ▶style tec ▶東芝ライテック ▶住友化学 ▶山田照明 ▶NECライティング

［ツアー02］Tour Guide：松下 美紀［松下美紀照明設計事務所］
ルート：スタンレー電気 ▶大光電機 ▶パナソニック ▶シャープ ▶日立アプライアンス ▶コイズミ照明

［ツアー03］Tour Guide：村角 千亜希［スパンコール］
ルート：コイト電工 ▶ルートロン アスカ ▶遠藤照明 ▶三菱電機照明 ▶トキ・コーポレーション ▶マックスレイ ▶LCL ▶岩崎電気

［ツアー04］Tour Guide：山下 裕子［ワイ・ツー・ライティングデザイン］
ルート：森山産業 ▶オーデリック ▶ライティング創 ▶日本コーバン ▶アイリスオーヤマ ▶DNライティング ▶エイテックス ▶YAMAGIWA ▶SD Lighting ▶星和電機

Seminar EL13 “Successful Urban Lighting” 世界の都市照明 “もう夜間景観なしでは都市景観は語れない!”

面出 薫［ライティング プランナーズ アソシエーツ］
アレキサンダー・コロンバーニ［LUCI 事務局長］
フレデリック・コートン［マルセイユ市 都市強化政策担当］
ベルナール・チャン［シンガポール都市再開発庁］
Moderator : 長町 志穂［LEM空間工房］

夜間景観に力を入れてまちづくりを行っている世界各都市での取り組みを、照明デザイナーだけでなく、現地の行政をはじめとする企画者の立場から紹介したシンポジウム。都市デザインの変化に伴う、一元的でなく多様性に富んだ都市照明の展開が考察されました。
マルセイユ・シンガポール・大阪府のほかヨーロッパの主要都市について、パネリストは事例をもとに夜間景観の現状を説明。仕組みや背景の異なる都市でのさまざまな取り組みについて俯瞰することで、夜間景観の重要性をあらためて認識する機会となりました。都市や建築にとって、照明は特徴を強める有力なツールであり、長期の展望や強い信念を持って事にあたっていくことが成功の鍵となるという印象が残るセッションでした。

Seminar EL14 ミュージアムライティングの今と未来

木下 史青［東京国立博物館 デザイン室長］
藤原 工［灯工舎］
岩井 達弥［岩井達弥光景デザイン］
Moderator : 澤田 隆一［サワダライティングデザイン&アナリシス］

全面をフラットに照らし出すことが正解とは限らない展示照明について、美術館や博物館の照明計画を手がける4人のデザイナーがディスカッションしました。
たとえば絵画では、描かれた光のありように合わせて照らすべきという意見が挙がりました。特に自然光の中で描かれた作品は複雑な色彩を持つため、自然光で照らす方が望ましいという指摘も。また、昼光変化を再現した照明デザインが評価を得た事例も紹介。標本など微妙な凹凸を表現するには、照射方向が変化する動的な照明の方が情報を多く引き出せるといったケースもありました。
LEDの普及で、演色性ばかりが取り沙汰されがちですが、照らす対象物や演出のあり方によってふさわしい照明計画が決まることが示されたのです。

Seminar EL15 リノベーションの照明デザイン

松下 進［松下進建築・照明設計室］
森 秀人［ライティングM］
Moderator : 野澤 寿江［近田玲子デザイン事務所］

近年急速に増加しているリノベーションのプロジェクト。その照明デザインについて、新築のプロジェクトとの相違点を議題として、各パネリストが手掛けた事例をもとに、ビフォー・アフターの姿を紹介しながら、特徴を探っていくセミナーとなりました。
聴者の関心を特に引いたのは松下進氏が関わった中尊寺金色堂の照明計画でした。最新の器具や固定方法などの技術を活用し、全体の一体感を出しながら求心性をもたせる手法が詳しく解説されたのです。パネリストが声を揃えたのは、現場で何が起こるか予測しづらいため、一にも二にも調査して検証を繰り返すことが大切だということ。そのメリットとして、現地で空間体験ができるためイメージがしやすく、計画の精度が高くなることが挙げられました。

2-3 | Event Report Enlighten Asia in Japan 2015

Seminar EL16 照明デザインのビジネスモデル

田中 康一［LIGHTLINKS INTERNATIONAL LIMITED］
鄭 美［EON SLD］
Moderator : 松下 美紀［松下美紀照明設計事務所］

海外で起業を目指す次世代の照明デザイナーや、経営スキルを磨きたい人へ向けてレクチャーを行いました。持論を展開したのは、香港で活躍する日本人デザイナー、韓国のデザイナー、東アジアを舞台に仕事をする日本人デザイナーの3者。
その内容は、起業のテクニック、仕事の見つけ方や契約の仕方、プロジェクト運営やスタッフ教育の方法、コンプライアンスの必要性、キャッシュフロー経営の手法、見積の作成方法や集金の仕方まで、実務をベースとした多岐にわたる内容が盛り込まれました。デザインの流出を防ぐため、仕事のやりとりでは容易に図面をダウンロードできないようにするなど、事務所内におけるセキュリティの重要性も確認。グローバルに活躍するための術が紹介されました。

Seminar EL17 現代照明デザインの変遷から学ぶ

伊藤 達男［伊藤達男照明デザイン研究所］
玉井 俊二［ミンツデザインコーポレーション］
Moderator : 中島 龍興［中島龍興照明デザイン研究所］

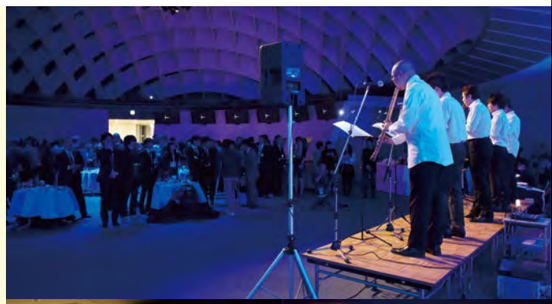
戦後、特に1964年の東京オリンピック以降に焦点を当て、照明デザインがどのように変化して今日に至っているのか、「照明器具」と「光の空間」の別に、時代を追って紹介されました。
高度成長期には大阪万博の開催に伴うホテルの建設ラッシュに合わせてシンボリックなシャンデリアが特注で多く制作されましたが、オイルショックを経て省エネルギーである蛍光灯の採用が促進されました。さらに、LED照明の時代を迎えている現在、照明器具の特性に合わせて、空間と照明デザインとの関わりも変化していることが示されました。
現在は、シンプルで豊かな光が求められる傾向にあることを伊藤達男氏は言及。光そのものの質をもっと追求していきたいと3人の意見は合致しました。

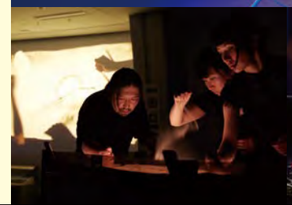
FAREWELL PARTY BEAUTIFUL SHADOW

［フェアウェルパーティ: ビューティフル・シャドウ］

一般社団法人 日本国際照明デザイナーズ協会の設立をあらためて内外に知らせるとともに、国際会議「Enlighten Asia in Japan 2015」が成功裏に終了したことを祝して、フジテレビ本社ビルの球体展望室でフェアウェルパーティを開催しました。
松崎晟山氏が代表を務める「オーケストラあいおい」の尺八と、サンドアートの第一人者船本恵太氏率いる「SILT」とのコラボレーションなど、光と音が饗宴する会員自らが企画実施した演出は多くの来場者を魅了しました。

Information
会場：フジテレビ本社社屋25階 球体展望室「はちたま」
主催：一般社団法人 日本国際照明デザイナーズ協会





2-3 | Event Report Enlighten Asia in Japan 2015

2-3 | Event Report Enlighten Asia in Japan 2015

2-4｜ライティング・フェアでのコードシェアおよび共催企画について

第1期の活動は、2015年3月3日（火）から6日（金）に東京ビッグサイトを舞台に開催した第2回「Enlighten Asia in Japan 2015」に集約され、セミナー、展示などさまざまな企画を立案実行しました。開催までの準備期間は、ほぼ1年間。今回は、第1回「Enlighten Asia in Japan」（2013年3月）を単独で開催したことが会員に多大なる労力を強いたことを反省し、同時に開催される「ライティング・フェア2015」とのコードシェア企画というスタイルを取りました。これには「ライティング・フェア」の主催者である一般社団法人 日本照明工業会および日本経済新聞社のご理解を賜ったことに感謝する次第です。また、こういったスタイルで実行できた背景には、照明デザイナーの協会を法人化して、日本に存在する公式な組織となったことがあります。

このコードシェアの内容の詳細は、下記のようなものです。「ライティング・フェア」に対しては、“企画協力”を行い、セミナーイベントおよび展示イベント、会場案内ツアーなどの企画・コンサルティングを行いました。このために、2014年4月より毎月1回開催される「ライティング・フェア」の各種会議に一般社団法人 日本国際照明デザイナーズ協会（IALD Japan）の担当者（セミナー担当、展示担当および事務局）が参画し、入念なコミュニケーションを図りました。こういった共催・協働作業を通して組み立てられたイベントの実行および成功は、私たちの職能集団が日本における照明産業の中で必要不可欠な立ち位置を確立した活動となったと考えています。

照明デザイン国際セミナーは、「ライティング・フェア」の関連イベントとしてIALD Japanと一般社団法人 日本照明工業会、日本経済新聞社との共催企画として具現化しました。こちらは、IALD Japanセミナーチームが企画し、延べ17講演を開催しました。また、第1回時に好評を博したフェアウェルパーティは、IALD Japanの単独企画として実行しました。

これらの企画の実行に向けて、法人内の理事および監事、会員の全精力を結集しました。この事業を遂行することによって、会員の団体への帰属意識が向上し、かつ関連する米国に本部を置くIALDからの評判も高いものを得ることができました。

共催企画の概要

2015年 3月3日（火）～6日（金）
ライティング・フェア（東京ビッグサイト）において

- **照明デザイン国際セミナー、Enlighten Asia+ライティング・フェア開催**
  テーマ: Feeling with Technology　全17講演を実施

- **コレカライト（展示、トークショー）**
- **Lighting Stage（講演）**
- **フェアウェルパーティ”Beautiful Shadow” の実施**

Chapter 03
組織運営

3-1｜委員会の概要と設置の目的

協会で実施するさまざまな活動の計画と実行を円滑に行うために、下記の5つの委員会を設立しました。各委員会は、理事より選任された委員長と会員有志からなる委員によって組織されます。委員長と各委員は年間の活動計画と実行予算を起案し、委員長は理事会においてその活動計画と予算の承認を受けたのち、滞りなく活動を実行します。各委員会は年間の活動計画を互いに共有し、十分に連携することで活動全体を盛り上げるとともに、内外に適切に活動を告知するものとします。

運営委員会

協会の運営やマネジメントおよび財務全般を管轄します。また協会の主な活動資源である協賛募集を計画的に行い、協会の経済的な活動基盤を万全なものとします。

事業委員会

2年に1度の「Enlighten Asia in Japan」を主としたイベントを実施するための社外調整を長期的に行い、イベント開催決定後にはイベントの内容を企画します。

研修委員会

外部または会員向けの研修プログラムを実施し、会員の意識と能力の向上を図ります。また学生向けの教育プログラムを実施し、未来の照明デザイナーを育てます。

メンバーシップ委員会

説明会開催やポスター募集等を通じた新規会員の獲得と、会員情報の適切な管理を行います。

広報委員会

Webサイトや会報誌（アニュアルレポート）を通じて委員会活動の広報を担います。また照明デザイナーとしてのマニフェストを起案し、必要に応じて公表する役割も受け持ちます。

3-2｜理事会体制

代表理事	石井 幹子		
副代表理事	近田 玲子	面出 薫	
専務理事	東海林 弘靖		
監事	松下 美紀	富田 泰行	
理事	稲葉 裕	岩井 達弥	内原 智史
	金田 篤士	澤田 隆一	武石 正宣
	戸恒 浩人	内木 宏志	永島 和弘
	中谷 太郎	長町 志穂	松本 浩作
	山下 裕子		

（50音順）

IALD Japan理事会 4種の委員会（分科会）構成表

委員会	部会	役割
1.運営委員会	運営委員会	協会の運営やマネジメントなど
	財務部会	財務・資金調達
2.広報委員会	広報委員会	Webサイトの更新管理、メディア対応など
	マニフェスト部会	マニフェストの起案と公開
3.研修委員会	セミナー研修部会	会員向け研修と外部向けセミナー
	教育部会	主に学生向けセミナーやWSなど
4.事業委員会	Enlighten Asia 部会	Enlighten Asia in Japan 素案づくり
	メンバーシップ部会	交流親睦イベント企画、会員の増強と管理など

※ 2014年9月1日から2015年8月31日までの第1期体制

3-3｜会員紹介

IALD Japan MEMBER LIST

日本国際照明デザイナーズ協会 メンバーリスト［五十音順］

※2016年1月10日現在

★は理事

	青木千春	松下美紀照明設計事務所	http://www.mikilight.com
	飯塚千恵里	飯塚千恵里照明設計事務所	–
	池田俊一	ライティング プランナーズ アソシエーツ	http://www.lighting.co.jp
★	石井幹子	石井幹子デザイン事務所	http://www.motoko-ishii.co.jp
	石田聖次	LIGHTSCENE	http://www.lightscene.jp
	板倉 厚	ライティング プランナーズ アソシエーツ	http://www.lighting.co.jp
	伊藤達男	伊藤達男照明デザイン研究所	http://itoolight.on.coocan.jp
★	稲葉 裕	フォーライツ	–
★	岩井達弥	岩井達弥光景デザイン	http://www.lumimedia.jp
	上田夏子	Nipek Pte Ltd	http://www.nipek.jp
	内野春佳	–	–
★	内原智史	内原智史デザイン事務所	http://www.ucld.co.jp
	大好真人	LIGHTDESIGN INC.	http://www.lightdesign.jp
	岡本 賢	Ripple design	http://ripple-design.jp
	岡安 泉	岡安泉照明設計事務所	http://www.ismidesign.com
	小野田行雄	イリス・アソシエーツ	http://iris-a.com
	角舘まさひで	ほんぼり光環境計画	http://www.bonbori.com
★	金田篤士	ワークテクト	http://www.worktecht.com
	上村 悠	RAYDESIGN INC.	http://www.raydesign.jp
	川端章彦	dpa lighting consultants Japan LLP	http://www.dpalighting.com
	河原武儀	ライティング・コンサルタンツ・オフィス	–
	久保隆文	MANTLE design	–
	窪田麻里	ライティング プランナーズ アソシエーツ	http://www.lighting.co.jp
	黒瀬俊英	ワークテクト	http://www.worktecht.com
	黒田 茜	LIGHTDESIGN INC.	http://www.lightdesign.jp
	小西武志	ALG（建築照明計画株式会社）	http://alg.jp
★新	小西美穂	ALG（建築照明計画株式会社）	http://alg.jp
	小山憲太郎	コヤマケンタロウデザイン事務所	http://koyamadesign.jp
★	澤田隆一	サワダライティングデザイン&アナリシス	http://slda.co.jp
★	東海林弘靖	LIGHTDESIGN INC.	http://www.lightdesign.jp
	水馬弘策	遠藤照明	http://www.endo-lighting.co.jp
	菅原千稲	フィラメント	http://filament.main.jp
	鈴木千穂	遠藤照明	http://www.endo-lighting.co.jp
	瀬川佐知子	ライティング プランナーズ アソシエーツ	http://www.lighting.co.jp
	高山直樹	松下美紀照明設計事務所	http://www.mikilight.com
★	武石正宣	ICE都市環境照明研究所	http://www.ice-pick.jp/
	田中圭吾	ライトモーメント	http://www.lightmoment.jp
	田中謙太郎	ライティング プランナーズ アソシエーツ	http://www.lighting.co.jp
	田中康一	LIGHTLINKS INTERNATIONAL LIMITED	http://www.lightlinksltd.com
	田中裕美子	–	–
	垂水茂喜	RAYDESIGN INC.	http://www.raydesign.jp
★	近田玲子	近田玲子デザイン事務所	http://www.chikada-design.com

	東宮洋美	ライトスケープ・デザイン・オフィス	http://www.ldo.co.jp
★	戸恒浩人	シリウスライティングオフィス	http://www.sirius-ltg.com
★	富田泰行	トミタ・ライティングデザイン・オフィス	http://www.tldo.jp
★	内木宏志	ナイキデザイン事務所	http://naikidesign.com
★	永島和弘	チップス	http://www.chipsss.com
	中島龍興	中島龍興照明デザイン研究所	http://www.h2.dion.ne.jp/~nakajima
	永田恵美子	ライティング プランナーズ アソシエーツ	http://www.lighting.co.jp
★	中谷太郎	*CYPHER	http://www.cypher-d.com
	永津 努	フェノメノン ライティングデザイン オフィス	http://www.phenon.jp
★	長町志穂	LEM空間工房	http://www.lem-design.com
	中村元彦	松下美紀照明設計事務所	http://www.mikilight.com
	野澤寿江	近田玲子デザイン事務所	http://www.chikada-design.com
	橋本八栄子	MYNA Design & Craft Pte Ltd	http://www.myna.com.sg
	服部祐介	ライティング プランナーズ アソシエーツ	http://www.lighting.co.jp
	早川亜紀	灯デザイン	www.toh-design.com
	原田武敏	焔光景デザイン	http://www.homura-lsd.com
	東 悟子	ライティング プランナーズ アソシエーツ	http://www.lighting.co.jp
	福多佳子	中島龍興照明デザイン研究所	http://www.h2.dion.ne.jp/~nakajima
	藤井美沙	ライティング プランナーズ アソシエーツ	http://www.lighting.co.jp
	藤井茂紀	Nipek Pte Ltd	http://www.nipek.jp
	真壁智香	ライティング プランナーズ アソシエーツ	http://www.lighting.co.jp
★	松下美紀	松下美紀照明設計事務所	http://www.mikilight.com
★	松本浩作	スタイルマテック	http://www.style-matec.co.jp
	馬渡秀公	アカリファクトリー	http://www.akarifactory.com
	村岡治彦	村岡治彦デザイン事務所	–
	村岡桃子	ライティング プランナーズ アソシエーツ	http://www.lighting.co.jp
	村角 リーダー 千亜希	スパンコール	http://www.spangle.jp
	目黒朋美	内原智史デザイン事務所	http://www.ucld.co.jp
★	面出 薫	ライティング プランナーズ アソシエーツ	http://www.lighting.co.jp
	森 秀人	Lighting M	http://www.lighting-m.co.jp
	八木弘樹	内原智史デザイン事務所	http://www.ucld.co.jp
	矢野基世	ライティング プランナーズ アソシエーツ	http://www.lighting.co.jp
★	山下裕子	ワイ・ツー・ライティングデザイン	–
	山本幹根	ライティング プランナーズ アソシエーツ	http://www.lighting.co.jp
	彌吉泉美	彌吉泉美照明デザイン	http://www.izu-lighting.com
	吉野弘恵	アカリ・アンド・デザイン	http://www.akari-d.com
	吉村美子	LIM Lighting Design	–
	綿貫真由美	内原智史デザイン事務所	http://www.ucld.co.jp

3-4｜IALD リージョナルコーディネーター紹介

IALDでは本部のある米国シカゴを中心に9のリージョン（地区）と13のチャプター（支部）があり、それぞれのコーディネーターが、地域の活動が活発に行われるよう取り組んでいます。現在、アジアでは、日本、中国、東南アジア、インドをそれぞれ1名のコーディネーターが担当しています。特に日本は米国外で最大の会員数を有し、現地法人化されたこともあり、その役割を期待されているところです。
日本のリージョナルコーディネーターは、ボランティアという立場で、日本における会員活動のサポート、シカゴ本部への活動報告、本部からの情報を日本の会員へ伝えるなどの役割を担い、日本での活動が円滑に進むようIALD Japan事務局と連携を取りながら活動しています。

3-5｜IALD Japan 事務局紹介

一般社団法人 日本国際照明デザイナーズ協会（IALD Japan）事務局は「一般社団法人 日本国際照明デザイナーズ協会」の法人設立に伴い、2014年9月に渋谷ライティング プランナーズアソシエイツのオフィス内に設置しました。現在担当スタッフが、IALD Japan リージョン、リージョナルコーディネーターと連携しながらIALD Japanの事務業務を務めています。
協会の目的である業界の発展に寄与するための活動サポート拠点として以下の業務を行っています。

1. 国際照明デザイナー協会（IALD）本部とのやりとり
2. 会員サポート
3. イベント開催に関する取りまとめや諸手続き
4. その他当協会運営に関するさまざまな業務

会員および外部の方からの各ご質問に対する問合せはこちらで承っていますので、各種資料、会員申込み、イベント、その他本協会に関するご質問はメール、電話にてお気軽にお問合せください。

一般社団法人 日本国際デザイナーズ協会（IALD Japan）事務局

Staff

東 悟子（左）／リージョナルコーディネーター
瀧 ゆう子（右）／事務局

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前5-28-10
tel: 090-2658-1121 mail: info@ialdjapan.jp
http://www.ialdjapan.jp
担当：瀧 ゆう子、東 悟子

3-6｜第2期に向けて

第1期は、2015年3月の「Enlighten Asia in Japan 2015」開催に向けての活動に終始しました。国際的な規模でのイベントを企画・実施するためには、相当量の準備時間と労力がかかることに身をもって経験しましたが、その甲斐あって大きな成功を収め、多くの参加者に喜んでいただきました。
これに続く第2期は、まず日本における照明デザイン文化の裾野を広げる活動に邁進したいと考えています。たとえば、建築やデザインを勉強している学生や、インテリアや照明に関心のある一般の方々への啓蒙活動としてセミナーを企画・実施します。また会員のスキルアップのための比較的小さな規模でのセミナーをできる限り多く開催したいとも考えています。第1期では活動の拠点が東京に集中しました。そこで第2期は、大阪や福岡での活動も視野に入れています。2015年11月には大阪にてセミナーを実施しました。私たち日本国際照明デザイナーズ協会は、日本における照明デザインの高次の啓蒙と普及活動を推進し、照明産業のさらなる発展に寄与したいと考えています。

第2期 活動計画案

2016年

1月	Enlighten Asia in Japan 2017にむけて／第1回 臨時総会・研修会開催
2月	Enlighten Asia in Japan 2017 実行委員会
3月	Enlighten Asia in Japan 2017 実行委員会
4月	Enlighten Asia in Japan 2017 実行委員会／運営委員会
5月	セミナー委員会、メンバーシップ委員会、教育委員会 Enlighten Asia in Japan 2017 実行委員会／第7回 理事会
6月	第2回 臨時総会 東京デザインセンター／ Enlighten Asia in Japan 2017 実行委員会
7月	Enlighten Asia in Japan 2017 実行委員会
8月	第2期 決算／第8回 理事会／ Enlighten Asia in Japan 2017 実行委員会

［協賛］

大光電機株式会社
株式会社遠藤照明
コイズミ照明株式会社
パナソニック株式会社　エコソリューションズ社
株式会社モデュレックス

岩崎電気株式会社
DNライティング株式会社

ウシオライティング株式会社
トキ・コーポレーション株式会社
株式会社ルーチ（旧社名 株式会社プロテラス）
三菱電機照明株式会社
株式会社 モデュラージャパン
ルートロン アスカ株式会社

SD Lighting 株式会社
ERCO
カラーキネティクス・ジャパン株式会社
KOYA JAPAN Lighting株式会社
スタンレー電気株式会社
株式会社電産企画
東芝ライテック株式会社
日本フロス株式会社
マーチン プロフェッショナル ジャパン 株式会社
マックスレイ株式会社
株式会社YAMAGIWA
山田照明株式会社
株式会社LIXIL
ルイスポールセン ジャパン 株式会社

IALD Japan Annual Report Vol.01

一般社団法人 日本国際照明デザイナーズ協会［アニュアルレポート］

［発行日］
2016年1月15日

［企画・監修・発行］
一般社団法人 日本国際照明デザイナーズ協会
http://www.ialdjapan.jp

［編集］
内原 智史／綿貫 真由美

［編集協力・執筆］
阪口 公子／加藤 純

［写真］
鈴木 文人／矢原 亮［フォワードストローク］

［デザイン］
四ノ宮 篤史［LaFRANCE］

［印刷・製本］
三晃印刷株式会社